

10月ほけんだより



令和3年9月30日

社会福祉法人たつみ会認定こども園

聖ヶ丘保育園こども未来学舎

10を横にすると、眉と目に見えるので、10月10日は「目の愛護デー」。子どもの目を守るには、感染症やけがだけでなく、「見え方の異常」にも注意が必要です。この機会に異常のサインを知りましょう。

小さな子どもは「見る力」も育ち盛り

赤ちゃんの目は、生後すぐぼんやりとしか見えてませんが、その後、1歳までの時期には急速に「見る力」が発達します。3歳までには、多くの子どもが大人と同じ程度(視力 1.0)まで見えるようになります。見る力(視覚)はゆるやかに発達し、6歳頃には大人と同程度になります。

生まれてすぐ
視力 0.01



1歳
視力 0.2



3歳
視力 0.8~1.0



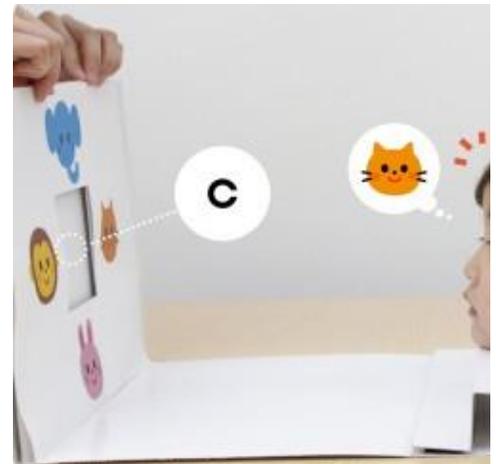
5歳
視力 1.0



視力検査 10月25~28日 ※幼児クラスのみ実施します。

工夫すれば、こどもの視力検査は3歳からできると言われています。

園で行っている視力検査は、幼児向けの「近見視力検査」という方法で行っています。30cmと、通常より近い距離から小さいランドルト環を見る検査になります。子どもたちにも分かりやすいように、ドーナツの絵をランドルト環に見立てて、クイズ遊びをしながら徐々にドーナツからランドルト環に移行する検査方法となります。視力「0.5」と「0.8」の指標を使って測定していきます。「0.8」が見えにくい場合は、念のため眼科受診を勧めています。



早く治療するほど回復しやすい！こんなサインに注意！



【頭を傾げる】



【目を細める】



【横目で見ると】



【片目をつぶって見る】



【片方の目の焦点が合わない】

見る力は、目から情報を取り入れ、脳で処理することを、毎日繰り返して育ちます。ところが、目に異常があると脳に情報が届かず、見る力が育ちません。早く治療を始めるほど回復しやすいため、見え方の異常に気づいたら、早めに眼科で相談しましょう。見え方のチェックにおすすめのものが、絵本です。左右の目の焦点、ものを見る様子が詳しく分かります